

寸言

日本飛行機株式会社
代表取締役社長

飛永 佳成



日本飛行機株式会社の現状と今後

本年6月末に日本飛行機株式会社の代表取締役社長に就任いたしました飛永佳成です。またこの度は、(一社)日本航空宇宙工業会の総合委員に選任されましたので宜しくお願ひ申し上げます。

さて、当社は、川崎重工業グループの一員として、また国内唯一の航空機専業メーカーとして、神奈川県横浜市と大和市にある2つの工場を中心に、①航空機部分品、宇宙機器の製造事業及び、②航空機の整備・改造事業を行っております。

製造事業の拠点である横浜工場では、複合材部品を軸にフラップ、主脚扉、胴体フレーム、主翼リブ等の設計・製造を行っており、ボーイングB747、B767、B777等の民間航空機に採用され国際分担生産の一翼を担っております。また、防衛省の哨戒機、輸送機、飛行艇、ヘリコプターなど、国産機のほぼ全機種で分担生産に参画しており、戦闘機等においては外装パイロンやランチャーの開発・生産も担当しております。宇宙機器分野では航空機で培った複合材技術をもとに、独自の構造物伸展・展開機構(コイラブル伸展機構)を開発し、日本の人工衛星のほぼ全てのアンテナ伸展機構や太陽電池パドルの担当を行う他、各種衛星等の構造物の設計・製造についても多くの実績を有しております。

一方、整備事業の拠点である厚木工場は、海上自衛隊厚木基地に隣接した、機体搬入に至便な立地で、大型ハンガーと整備・支援設備・熟練の整備員を揃えており、防衛省の哨戒機、輸送機をはじめ、海上保安庁機、民間機等の幅広い機種の分解・点検・整備から飛

行試験まで一貫した整備を行っております。また、米軍航空機の国内整備工場として半世紀以上の実績を有し、戦闘機や対潜ヘリコプター等を含めて多種多様な航空機の整備・修理において高い評価を得ており、累計100機種以上14,000機を超える国内随一の整備工場となっております。近年は、本拠地の厚木工場のみならず、顧客の皆様のニーズに対応して全国の基地・飛行場に出向いて整備等を展開するなど、活動の場を広げております。

これら事業の80有余年の歴史・実績を基に、次なる100周年に向けた基盤造りに向かっておりますが、航空機製造事業においては、世界規模でのサプライチェーン見直しが行われ、国際的な競争も激化してきており、生産性向上に加え、独自技術による差別化やコアコンピタンス確立が益々重要になっております。また、整備事業におきましても、整備内容の高度化や事業範囲拡大の要請や、日米ガイドライン見直し(修理・整備体制の日米協力)による技術提供ニーズの多様化など、当社を取り巻く経営環境は大きく変化しております。

折しも世界的なコロナショックの影響など、需要・供給共に、先が見通し難い時期ですが、こんな時こそメーカーの原点であるQCD(品質・納期・コスト)を頑なに追及し、得意とする事業・技術分野の高度化を図るなど、製品・サービスの差別化に注力し、我が国の航空機産業および安全保障への更なる貢献を目指していきたいと思ひます。

今後とも皆様の一層のご指導、ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。